

コミュニティ・スクール事業



【コミュニティ・スクール研修会
西マイスターによる講演の様子】

平成25年度に始まった「コミュニティ・スクール事業」は、今年度で7年目となりました。市教育委員会では、本事業を通して、もともと地域との結びつきが強い富山市の学校の特徴を生かしながら、地域や保護者との連携をより深め、学校教育活動を充実させたいと考えています。

今年度は、コミュニティ・スクール（以下「CS」という）は、正式校に藤ノ木小・中学校を加え、モデル校を含めて10校となりました。

市教育委員会では、本事業の効果を設置校以外にも広げるため、毎年、富山市CS研修会を開催しています。1月22日（水）に行った今年度の研修会では、和合中学校から、学校運営協議会の組織づくりや地域との関係づくり、小中の連携強化についての取り組みが紹介されました。

また、講師としてお招きした西孝一郎CSマイスターには、「こどものために みんなでつなぐ 地域とともにある学校 コミュニティ・スクール」と題して、CSの目的、組織づくりの方法、地域と学校の連携・協働の在り方等について、ご講演いただきました。

今後、文部科学省では、全ての学校において学校運営協議会設置を促進する方向性を示しつつも、令和4年3月を目途にその在り方について改めて検討を行うとしています。そのため、国の動向を注視していく必要はありますが、各学校において、CSのよさや課題、組織づくり等について検討し、それぞれの学校の実態に合わせた「地域とともにある学校づくり」に生かしていただきたいと考えています。

ゲーム・ネット・スマホ依存について考える～富山市学校保健研究協議会より～

本市では、学校・家庭・地域との連携を生かした健康教育推進のため、毎年1月に「富山市学校保健研究協議会」を開催しています。今年度は、愛知県医療療育総合センター中央病院 子どものこころ科部長 吉川徹先生をお招きし、「発達障害とゲーム・ネット・スマホ依存」と題してご講演いただきました。平日の開催にもかかわらず200名以上の保護者が参加され、後半の意見交換会では次々と保護者が苦しい胸の内を吐露されるなど、深刻な状況にある家庭が多いことを改めて実感しました。

講演では、「時代は後ろには戻らない。ネットの中の世界を否定し、そこから子どもを遠ざけようとする方法には勝ち目がない。ネットとデジタル機器は、子どもが安全に使えるものではないが、大人になるまでに使い方を覚えておかなければいけないものでもある。ポジティブな側面に目を向け、子どもの世界に近づいてみるのが重要である」とのお話があり、価値観が変わったという感想も多く寄せられました。講演のエッセンスを紹介します。各校に送付する講演録もご一読ください。

①情報リテラシー教育の大前提として、大人がリテラシーをもつ必要がある。

～使えるリテラシー 使い過ぎないリテラシー 安全に使うリテラシー～

②使わせる前が大事である。～所有権はあくまで親、子どもには貸し出し。プレゼントにはしない。～

③約束は大人が守らせるものであり、子どもが守るものではない。守られない約束が放置されている状況が何よりも悪い。～守れる、守らせることができる約束を！～

- ・一番難しい「おしまい」の成功体験を支援する。親の気まぐれで与えるのではなく、次にいつ使えるのかの見通しをもたせ、約束を守る練習を繰り返す。
- ・トラブルは、ペアレンタル・コントロールを活用するなど、テクノロジーでも予防できる。
- ・厳しい制限からスタートし、年齢とともに段階的に解除していく。